

明けましておめでとうございます。

昨年元旦に起こった能登半島地震から早一年、めまぐるしく急ぎ足で駆け抜けた年のようだった気がしております。いかがお過ごしでしたでしょうか。

私事で恐縮ですが、YouTube「作詩家久仁京介の世界」では9月29日、なおみあきさんが発展的な「なおみあき&宮本隆治 ふたりのビッグショー」をラポルテ五泉で開催し、観客500名を集めて大きな成果を収めたことに、拍手を贈っているところです。

もちろん我々のかこむ会の仲間の8名にも応援いただき加わって頂いた結果ですが、楽しいステージだったと聴こえてきたのは大変嬉しかったです。

そして今年はさてどんな年なのか、どこかバタバタとした年明けとなっています。

竹島宏が初めてのミュージカル「プラハの橋」など、関わりのある歌手さんたちのコンサートなどお付き合いで3つのコンサート、ライブを観てまわりました。

また相変わらずよく走り回っているカラフルパレットのキャンペーンライブは重い足腰を軋ませながら付き合っています。動けば重い、動かなければ痛みがくる、まあ活動する行動することで良しとするところですね。

新年初めのことでした。

昨年のなおみあきのコンサートに話を戻します。

あの日、決して興味があるとは思えない歌のコンサートに嬉しそうに駆けつけてくれた人がいました、内山睦彦くんです。開演前の暫くの時間、「逢えてよかった」と云ってくれた。他の仲間には「今日が最後でおめえらともきっと会えなくなる」と云っていたそうです。

彼はコンサートの日、みんなに会える、どうしてもという思いで駆けつけてくれたのだと思った。

コンサート中、三谷くんは気にかかり、ふっと客席の彼を見ると瞼をぬぐう姿があったとか、その日は幕が降りてから三々五々別れたようです。その日から暫くの時間が過ぎて、訃報を聞くことになりました。つらい話でごめん、この話だけは書いておきたかった。

まだ新年ですが、明るい気持ちで書き残して、伝えたかった。ご冥福を祈ります。

歌は、音楽は喜び悲しみにつけ、人々の心に寄り添っていると感じます。その仕事に携わりながら良い歌が書けないと云うジレンマから、晩年になって人生の歌が書きたいと思いますが…。

ボケ始めたこの頭で、そして気持ちでどうかと思う。

かこむ会のみんなが元気であることは当たり前だと思いつつ、今年も一年語りあいましょう。